

不登校の早期発見について

「欠席状況共有シート」を活用して、子どもの様子を確認しましょう。

不登校の兆しを早期に発見し、子どもの状態に合った支援策を検討するための材料の一つとして、欠席状況共有シートを活用しましょう。特に、夏季休業前に**今年度の欠席日数の累計が10日以上**になっている子どもや、遅刻、早退が目立つようになってきた子どもについては、欠席が長期化しないように注意して見守る必要があります。

また、気になる子どもに限らずに、日頃から一人ひとりの子どもの様子に目を配り、不登校の兆しを的確にとらえることが重要です。そこで、子どもたちが示しているサインにいち早く気づき、早い段階から組織的な対応が行えるよう「**不登校の早期発見チェックリスト(教職員用)**」を作成しましたので、御活用ください。

担任の先生をはじめ多くの先生方の目で、子どもたちの変化をとらえていきましょう。



普段の子どもの様子から
心のサインをとらえよう

「不登校の早期発見チェックリスト」

学年：___年___組 氏名：_____ 累計：欠席___日、遅刻___日、早退___日

出席状況 や体調

- 特定の曜日（週始めの月曜日等）の欠席、理由のない欠席が増えた。
- 遅刻、早退が増えた。
- 頭痛、腹痛、体調不良などを訴えることが増えた。
- 保健室の利用が増えた。

学習の取組

- 授業に集中して取り組めずに、ぼんやりする時間が増えた。
- 特定の授業の参加態度に違いが見られた（課題の提出状況、見学等）。
- 成績が急に低下した。
- 忘れ物、課題の未提出が増えた。

様子や行動

- 数が減った（又は、□数が増えた）。
- 友人関係に変化が見られた（トラブル、孤立等）。
- 感情の起伏が激しくなった（又は、ほとんど見られなくなった）。
- 服装や髪形、身だしなみに変化が見られた（奇抜、無頓着、不衛生等）。
- 教職員を避けるようになった（又は、いつも近くにいるようになった）。
- 部活動を休むようになった（又は、退部した）。

日頃からのかかわりを大切にして、小さな変化を敏感にとらえましょう。